

使用上の注意改訂のお知らせ

β-ラクタマーゼ阻害剤配合抗生物質製剤

日本薬局方 注射用タゾバクタム・ピペラシリン

タゾピペ®配合静注用 2.25「日医工」

タゾピペ®配合静注用 4.5「日医工」

製造販売元 日 医 工 株 式 会 社  
富山市総曲輪 1 丁目 6 番 21

この度、上記製品につきまして「使用上の注意」の一部を改訂（下線部分）いたしましたので、お知らせ申し上げます。

なお、改訂添付文書を封入した製品がお手元に届くまでには若干の日数が必要ですので、今後のご使用に際しましては下記内容をご高覧くださいますようお願い申し上げます。

<改訂内容> (.....: 自主改訂)

改 訂 後	現 行
<p>10. 適用上の注意</p> <p>(1) 調製方法：</p> <p>1) 点滴静注に際しては補液に溶解して注射すること。 また、静脈内注射に際しては注射用水、生理食塩液 又はブドウ糖注射液に溶解し、緩徐に注射すること。</p> <p>2) 本剤 <u>2.25g</u>バイアルにおいて、<u>1</u>バイアルを生理食塩 液及び5%ブドウ糖注射液<u>10mL</u> に溶解した時の溶 解後の液量は、<u>いずれも11.5mL (196mg(力価)/mL)</u> となる。 また、本剤4.5gバイアルにおいて、1バイアルを生理 食塩液及び5%ブドウ糖注射液<u>20mL</u>に溶解した時 の溶解後の液量は、それぞれ23.3及び23.4mL (193 及び192mg (力価) /mL) となる。</p> <p>3) 点滴静注にあたっては、注射用水を使用しないこと (溶液が等張にならないため)。</p> <p>4) 溶解後は速やかに使用すること。</p> <p>5) アミノグリコシド系抗生物質（トブラマイシン等） の混注により、アミノグリコシド系抗生物質の活性 低下をきたすので、本剤と併用する場合にはそれぞ れ別経路で投与すること。</p> <p>(2) 以下、現行どおり</p>	<p>10. 適用上の注意</p> <p>(1) 調製方法：</p> <p>1) 点滴静注に際しては補液に溶解して注射すること。 また、静脈内注射に際しては注射用水、生理食塩液 又はブドウ糖注射液に溶解し、緩徐に注射すること。</p> <p>2) 本剤4.5gバイアルにおいて、1バイアルを生理食塩液 及び5%ブドウ糖注射液<u>20mL</u>に溶解した時の溶解 後の液量は、それぞれ23.3及び23.4mL (193及び 192mg (力価) /mL) となる。</p> <p>3) 点滴静注にあたっては、注射用水を使用しないこと (溶液が等張にならないため)。</p> <p>4) 溶解後は速やかに使用すること。</p> <p>5) アミノグリコシド系抗生物質（トブラマイシン等） の混注により、アミノグリコシド系抗生物質の活性 低下をきたすので、本剤と併用する場合にはそれぞ れ別経路で投与すること。</p> <p>(2) 以下、略</p>

\*改訂内容につきましては DSU No.251 に掲載の予定です。

<改訂理由>

- ・ 従前、「適用上の注意」の「調製方法」の項に 4.5g バイアルを溶解した時の溶解後の液量が増加する旨を記載していましたが、この度 2.25g バイアルを溶解した時の溶解後の液量につきましても記載を行いました。

なお、改訂後の添付文書は日医工株式会社ホームページ

[http://www.nichiiko.co.jp/medicine/medicine\\_m\\_seihin.html](http://www.nichiiko.co.jp/medicine/medicine_m_seihin.html)

及び医薬品医療機器情報提供ホームページ <http://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>  
に掲載いたします。